



北松西高だより



e-mail : hokushounishi-h@news.ed.jp HP : <http://www2.news.ed.jp/section/hokushounishi-h/>

第 11 号 令和 3 年 2 月 26 日

◆3月の行事予定◆

日	曜	行事予定
1	月	第66回卒業証書授与式
2	火	
3	水	
4	木	B日課
5	金	商品開発デー④
6	土	
7	日	
8	月	後期選抜設営
9	火	後期選抜①
10	水	後期選抜②
11	木	45分短縮授業
12	金	生徒個人写真撮影 国公立大学後期試験
13	土	
14	日	
15	月	⑦カット6コマ日課
16	火	45分短縮授業 進路体験発表会
17	水	合格発表
18	木	⑦・掃除カット 6コマ日課
19	金	
20	土	春分の日 「ソフトテニス」個人選抜
21	日	
22	月	
23	火	(午前)球技大会 (午後)合格者オリエンテーション ノー残業デー
24	水	修了式・離任式
25	木	新2・3年生教材購入期間～27日
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

サヨナラは悲しい言葉じゃない (YELL)

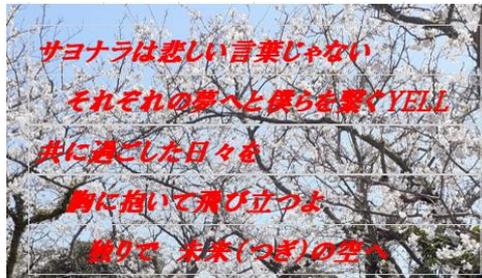
教頭 松添 秀喜

3月1日、第66回生20名がそれぞれの未来へ飛び立とうとしています。保護者の皆様をはじめ小値賀町民皆様方、誠にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さんへ。いきものがかりというグループの“YELL”という歌が知っていますか。未来の空へと飛び立つ卒業生の希望の翼は、確かに未熟かもしれませんが、しかし、未熟だから弱いではありません。未熟だからこそ「可能性」があると思います！是非、それぞれの道で精一杯に飛翔する姿を見せてください。職員一同心より期待しています。

そして、友を思う気持ち同様に大切なものがあります。「あなたが使っていた部屋に行くと、あなたの香りがして涙がでます」。これは、ある母親が、異郷の地へと送り出した息子さんに宛てた手紙の一部です。まさにこれが我が子を遠くに送り出す親の親心ではないでしょうか。

卒業していく皆さん、どうか忘れないでください、ふるさとは皆さんの身を案じ、帰りを待ちわびている家族がいることを。どうか思いを馳せてください、ここにいる仲間達はこの大空のどこかで今日も懸命に生きていることを。そして、どうか誇りにしてください、この北松西高校が皆さんの母校であることを！



3年βコース 選択科目 (器楽) 発表会

1月26日(火)、3年βコースの生徒が器楽の授業の一環で発表会を行いました。3年βコースでは、選択科目に器楽とフードデザインがあり、普段は別々に授業を行っていますが、年に数回それぞれ学習したことを発表しあう場を設けています。

今回は、1年間の学習の総まとめとして、器楽選択者がフードデザイン選択者に向けてモンゴル800の「小さな恋のうた」を披露しました。



1・2年進路講演会

2月9日（火）に1・2年生を対象とした進路講演会を実施しました。

今年度は株式会社ベネッセコーポレーション九州支社の高月淳芳様に二つの講演（「大学進学志望者対象」と「専門学校／短期大学進学・就職志望者対象」）をオンライン形式で実施していただきました。

大学進学志望者には、今年度より実施された「大学入学共通テスト」の出題傾向や学習のポイントを示していただきました。また、専門学校進学や就職志望者には、基礎学力の必要性や効率的な学習のコツなどを教えていただきました。

今回の講演会を受けて生徒たちには、進路実現に向けて日々基礎学力を高めるよう努力を重ねるだけでなく、予測困難な時代を生きていくために人間にしか身につけることができない力を磨いてほしいと思います。



主権者教育（1・2年）

2月16日（火）に主権者教育を実施しました。1年生は「若者はどうすれば選挙に行くのか」、2年生は「18歳選挙権の意義とは何だろう」をそれぞれテーマとして、資料を読んで考え、友人の意見を聞きながら、自分の意見を深めることができました。また、投票率が低く、有権者が少ない10代・20代の意見を自分たちの生活に反映させるためには、政治に関心を持って選挙に参加することが肝心だと気付くことができました。

高校生活においても、現状の課題を解決するために積極的にアイデアを出し、行動に移すことができる力を身につけてほしいと思います。



商品開発デー

2月9日（火）、商品開発部は「担い手公社班」と「キッチンカー班」に分かれ、今年度最後の試作を行いました。「担い手公社班」は、小値賀産の紫芋を使った芋あんや、白あんにココアパウダーを加えたチョコあんなど計6種類のもなかを作りました。「キッチンカー班」は、前回の活動でデザートや菓子パンとして楽しめるサンドイッチを考案し、今回、ペーストにした芋を使ったサンドイッチ作りに挑戦しました。2班とも材料の配合や調味料の組み合わせを変え、何度も試食を行い、話し合いのすえ自分たちの納得のいくものを作ることができました。今回試作したものを次年度の活動にいかしていきたいと思います。

今年度は、校内・校外でのイベントが中止となり、開発したものを発表する機会はほとんどありませんでしたが、tantanさんや担い手公社さん、キッチンカーの藤田さんをはじめとする地域の方々からアドバイス・ご指導をいただき、生徒達は商品を開発することの奥深さや大変さ、やりがいを実感することができました。本当にありがとうございました。引き続き、商品開発部を応援いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

